英語演習 メディア論

English Media Studies

志柿 浩一郎
Koichiro Shigaki

2026年度 秋学期　月曜4限・木曜3限

今日のオリエンテーションで分かること

第1回｜オリエンテーション

- 授業の目的と活動、評価、準備するものを確認します。
- AI会話と学習プラットフォームを、教員の画面で見ます。
- 最後に、ペアで英語を少し話してみます。
- 第2回までの課題（自己紹介の録音）の出し方を説明します。

- 2回目もオリエンテーション的なものです。空耳を第2回で扱います。

アウトライン / Outline

第1回｜オリエンテーション

- 授業の概要と目的
- 授業計画
- 授業のルールと要件
- 学習プラットフォーム
- 評価方法
- 「メディアリテラシー」という言説を解体する
- 先生の自己紹介（英語）
- 到達目標
- 今後の予定
- 使用するデジタルツール
- 第2回課題：自己紹介
- 授業の進め方
- 質疑応答

授業の概要と目的 / Course Overview and Objectives

第1回｜オリエンテーション

メディアスタディーズの基本概念を英語で学ぶ

Learn fundamental concepts of media studies in English

英語でのメディア理論の理解と表現能力の向上

Improve understanding of media theory and expression skills in English

「メディアリテラシー」言説の批判的検討と再考

Critical examination and reconsideration of "media literacy" discourse

生成AIを活用した英語学習とメディア分析

English learning and media analysis using generative AI

本授業は、メディアスタディーズ、マスコミュニケーション、メディアと社会に関する知識を平易な英語で学習し、英語での学習スキルを向上させることを目標とします。

これは理想です

シラバスに書いたのも理想です

- 今のが、この授業の理想の姿です。シラバスに書いたのも理想です
- 現実は違います。日本の高校を出て、日本の英語の授業を受けてきた。単語は受験で入っている
- でも、話せない。聞けない。聞く気もない。話す気もない。大半がそうです
- 責めてはいません。それが現実で、授業はそこに合わせないといけない

その上で、この授業でやること

普通の英語の授業より、難しいことをやります

- **普通の英語の授業より、難しいことをやります**
- メディアという学問のテーマを通して、英語の力を総合的に上げる
- メディアは先生の研究分野です。だから中身で手を抜きません

- 今より、さらに上を目指す。それがこの授業の目的です

授業のルールと要件 / Course Rules and Requirements

第1回｜オリエンテーション

出席と参加 / Attendance & Participation

積極的な参加が求められます。対話を多く取り入れる形式で進めていきます。

Active participation is required. Classes will include many interactive discussions.

言語使用 / Language Use

日本語及び英語のバイリンガル授業。受講者次第で使用言語（日本語または英語）を決定します。

Bilingual class in Japanese and English. Language use will be determined based on students' needs.

デジタルデバイス / Digital Devices

パソコンまたはタブレットを授業に必ず持参してください。

Please bring a laptop or tablet to every class.

授業のルールと要件 / Course Rules and Requirements（続き）

第1回｜オリエンテーション

課題提出 / Assignment Submission

課題は学習プラットフォームから出します。メール提出はありません。

All assignments are submitted through the learning platform.

サポート / Support

質問や困難がある場合は早めに相談してください。学習支援技術なども利用可能です。

Please consult early if you have questions or difficulties. Learning support technologies are available.

生成AIの活用 / Using Generative AI

禁止はしません。この授業ではむしろ使います。ただし使い方は決めます（授業サイト「履修ルール」）。

You may use generative AI. The rules are on the course website.

授業で必要なこと

第1回｜オリエンテーション

- 対面の演習です。毎回、英語で読み・聞き・話し・書きます。
- PCまたはタブレットとイヤホンを持参します。
- 点呼に返事をします。点呼後に来たら自分から申し出ます。
- 特別な配慮や、分からないことは早めに相談してください。

席と遅刻

第1回｜オリエンテーション

- 席は第1回か第2回に決めます。英語演習は中間にも席替え。
- 遅刻2回で欠席1回。理由なく20分を超えた遅刻は欠席扱い。
- 無断での入退室はしないでください。体調が悪いときなどは、教員に伝えてから出てください。

授業中の過ごし方

- 授業と関係のないことをしているのが見えたら、欠席とみなします。事前に忠告はしません。
- 英語での雑談は練習になります。だから可です。
- 日本語で雑談していたら、絡みに行きます。

提出と期限

締切の日付は、授業サイトに全部出ています

- 提出先は学習プラットフォーム。メールでの提出は受け取りません
- 締切はすべて日曜23時59分。過ぎても出せます。締め出しません
- ただし採点の満点が下がります。月曜23:59まで75点、火曜23:59まで50点、それ以降は25点満点
- **「75点あげます」ではなく「75点満点で採点します」**。中身が8割なら60点です
- システムの不具合で出せないときは、その場で連絡してください。こちらの責任なので不利益は生じません

成績の考え方

隠れた基準はありません。詳しくは授業サイト「成績評価について」

- A＋：Can Do をすべて満たし、課題や学習記録に、継続した取り組み・改善・伸びが見える。
- A：Can Do をすべて満たし、優秀な学修成果が確認できる。
  A－：ほとんどの面で優秀だが、一部に改善の余地がある。

成績の考え方（続き）

隠れた基準はありません

- B帯：Can Do の達成は確認できるが、範囲・質・安定性に差がある。C帯：合格に必要な最低限はあるが、目標に十分届いていない部分がある。
- 判定に使うのは、提出したもの、学習プラットフォームの記録、ポートフォリオ、授業で話したこと、自己評価。
- クラス内の順位はつけません。全員が到達すれば、全員が到達です。

評価方法 / Evaluation

第1回｜オリエンテーション

項目	配点	English
出席・参加度・授業内課題	35%	Attendance, Participation & In-class Activities
各授業毎リアクションペーパー	15%	Weekly Reaction Papers
ポートフォリオ・授業外学習	40%	Portfolio & Self-study
その他	10%	Others

- ポートフォリオと授業参加は最も重要な評価項目です。準備学習（予習・復習）は各回の授業で指示します。

「4技能」は、もう古い

この授業は、次の枚から別の言葉で話します

- 読む・書く・聞く・話す。ずっとこの分け方で習ってきたはずです
- でも実際の場面は、そんなにきれいに分かれません。人と話すときは、聞くと話すが同時に起きています
- ヨーロッパで作られた枠組み（CEFR）は、別の分け方をします
- **受容**＝読む・聞く／**産出**＝書く・話す／**やりとり**＝相手と交わす／**仲介**＝分かったことを、知らない人に伝える
- この授業がいちばん力を入れるのは「仲介」です

この授業が終わるころには（Can Do）

想定レベル帯は A2〜B1。「どこでやるか」は授業サイトに

- 受容：メディア論の基本的な考え方について、英語で書かれた短い説明を読んで、主張の骨格をつかめる。教員やクラスメイトの英語の説明を聞いて、要点を追える。

- 仲介：英語で読んだ・聞いた内容を、このテーマを知らない人にも英語で説明できる。**この授業がいちばん力を入れるところ。**

この授業が終わるころには（Can Do）続き

想定レベル帯は A2〜B1

- 産出：学んだ理論を、自分の言葉で30秒から1分で説明できる。身近な例を1つ挙げて3〜5文で書ける。
- やりとり：相手の説明が分からなかったとき、聞き返したり言い換えたりして会話を続けられる。
- 言語資源：メディア論の基本語彙を、意味だけでなく音と使い方ごと使える。
- 自律：自分の弱点を把握して、週の練習量を自分で決められる。

到達目標 / Learning Objectives

第1回｜オリエンテーション

メディア研究の重要な問題と抽象的概念を英語で理解する

Understand key issues and abstract concepts in media studies in English

学生自身の言葉でメディアを定義し、メディアと社会の関係を理解する

Define media in students' own terms and understand media-society relationship

日常生活におけるメディアの影響を認識し、適切に関与する

Recognize the impact of media in everyday life and engage accordingly

英語での情報伝達能力の強化

Strengthen the ability to convey information in English

到達目標 / Learning Objectives（続き）

メディアに関連する理論的枠組みの意義と役割を理解する

Understand the significance and role of theoretical frameworks related to media

メディア理論の学習を通じた将来の研究と学習の基盤構築

Build foundation for future research and learning through media theory

翻訳に依存しない語彙習得スキルの開発

Develop vocabulary acquisition skills that don't rely on translation

様々なツールを使った生涯学習者になること

Become a life-long learner using various tools

使用するデジタルツール / Digital Tools

第1回｜オリエンテーション

授業サイト

各回の内容、課題、資料、ルール。毎週ここを見てから教室に来る。

koachshigaki.info/fall2026/eigo-enshu/

学習プラットフォーム

課題を出す、先生のコメントを読む、授業外の記録を残す。自分の進み具合もここで見る。

gengodojo.app

生成AI

使います。音読する英文を作る、書いた英文を直してもらう、会話の相手にする。使い方の線引きは授業サイト「履修ルール」。

Generative AI is part of this course. See the course rules for how to use it.

持ち物

パソコンまたはタブレットを授業に必ず持参してください。

Please bring your PC or tablet to every class.

授業の構成：第5回からは、二種類の回が交互に来ます

第1回はオリエンテーションと初期の確認。第2〜4回は、英語の音・発音・学習のしかたなど、これから使う練習の型

内容の回（5・7・9・11・13・15）

メディア論のテーマを英語で扱います。メディアを学ぶ意味、マスコミュニケーションの諸理論、コミュニケーションのモデル、グローバルなメディア、マクルーハンなど。

準備の回（6・8・10・12・14）

前の内容を短く説明し直したり、具体例について話したりします。伝わりにくかったところを直す練習と、次回の語彙・表現の準備を組み合わせます。

準備の回の冒頭は、毎回おなじことをやります

前の週の内容を、このテーマを知らない人に英語で説明する。これがこの授業の中心の訓練です（CEFR でいう「仲介」）。

だから

内容の回を休むと、次の準備の回で困ります。逆に言えば、休んだ人はその回で追いつけます。

準備の回も、英語を使って試す回です

- 分かりにくいところを確かめ、説明や練習の量・難しさをクラスの様子に合わせて調整します。
- 語彙クイズについて：シラバスには「毎回の授業のはじめに語彙クイズ」と書きましたが、実施しません。不人気だったのと、クイズがあってもなくても語彙を増やす作業はあるからです。

必ず出す課題は4本

締切はすべて授業サイトに出ています

- 形は毎回同じ。読む → 3〜5文を声にして録音する → 3〜5文で書く
- 1本あたり30〜45分を見ておいてください
- 木曜3限：11月15日／11月29日／12月13日／1月10日
- 月曜4限：11月8日／11月22日／12月6日／1月10日
- どれも授業で配って説明してから、2週間以上あけて締切が来ます

準備の数回と、メディア論の学習

第1回｜オリエンテーション

- 第1回：オリエンテーションと、短い体験。
- 第2回：オリエンテーションの続き、自己紹介、英語の音・空耳。
- 第3回：自己紹介をもう一度、質問と音・会話の練習。
- 第4回まで準備。第5回「Why Study Media?」から本編。何回かかるかはクラスによります。

各回の予定（暫定）

受講者の人数や進み具合で内容と順番を変えることがあります。変更は授業サイトで知らせます

回	種別	やること
1	オリエン	授業の構成と成績の説明／英語力の初期確認／学習プラットフォームの登録
2–4	基礎づくり	平易な英語表現の練習／デジタルツールの訓練／教室で使う英語／メディア論を英語で読むための下地
5	内容	Why Study Media?　メディア研究とは何か。メディアリテラシーが持つ意味

各回の予定（暫定）続き

6・8・10・12・14 は準備の回。冒頭で前の週の内容を英語で説明し、次回の語彙と概念を仕込みます

回	種別	やること
7	内容	マスコミュニケーションの理論（1）　Agenda-Setting／Spiral of Silence／Hypodermic Needle
9	内容	マスコミュニケーションの理論（2）　Limited Effects／Two-Step Flow
11	内容	コミュニケーションのモデル　Propaganda Model／Encoding-Decoding
13	内容	グローバルな視点　Media Imperialism／Globalization／Political Economy
15	内容	まとめ　メディアはメッセージか（McLuhan）／自分にとってメディアとは何かを英語で言う

学習プラットフォームに残るもの

自分がどこにいるかは、学期の途中からいつでも自分で見られます

この授業の課題

毎週の課題はここから出す。提出の記録も残る。

先生からのFB

先生のコメントはここで読む。

ポートフォリオ

授業外で英語に触れたことを、自分で1つずつ書く。成績の40%はここと課題の記録。

自動の評価

声にした課題には、その場で自動の評価とアドバイスが返る。スコアの推移も見られる。

提出できたかの確認

出したかどうかは自分の画面で分かる。提出すると「✓ 提出完了」に変わる。

締切と点数

締切と、自分が何点満点で採点されたかは、授業サイトの表と先生からのコメントで確かめる。

決まり文句は、やめてください

それをやめてもらうのが、この授業の目的です

- 前に勤めていた大学で、同じような授業をやっていました
- みんな優等生で、大学の雰囲気に忖度して、決まり文句を言う
- 「メディアリテラシーは重要だと思います」「情報化が進んだ社会では、情報をきちんと吟味すべきだと思います」
- いいことを言えば単位がもらえる。そういう判断です。よく分かります

- それをやめてもらうのが、メディア論としてのこの授業の目的です

「メディアリテラシー」という言説を解体する

Deconstructing "Media Literacy" Discourse

教育業界の常套句 / Educational Rhetoric

「メディアリテラシー」は教育業界で無批判に称揚される概念となっていますが、その実態は何でしょうか？

技術的変容 / Technological Transformation

SNSや生成AIの台頭により、従来の「メディアリテラシー」の枠組みでは捉えきれない現象が増加しています。

産業的利害 / Industrial Interests

新聞社が教育現場に「新聞を」と売り込む際の隠れ蓑として、「メディアリテラシー教育」が利用されてきた歴史があります。

「メディアリテラシー」という言説を解体する（続き）

Deconstructing "Media Literacy" Discourse

批判的思考の空洞化 / Hollowing of Critical Thinking

「批判的に考えましょう」と唱えながら、実際には特定の価値観を無批判に受け入れさせる矛盾が生じています。

英語で学ぶ意義 / Value of Learning in English

英語圏と日本のメディア環境の差異を通じて、「当たり前」とされる前提自体を問い直す視点を養います。

この授業の立場

この授業では「メディアリテラシー」という概念自体を疑い、その矛盾を探ります。

今後の予定

第1回｜オリエンテーション

第2回　自己紹介の続きと、英語の音

日本語の自己紹介を英語にすると何が起きるか。空耳から、英語の音の話。

第3回　文の切り方と、会話を続ける

文をどこで切って読むか。声にする課題の出し方。相槌と質問で会話を続ける練習。

第4回　準備の最後

第5回に向けて、短い英文を読んで3つの問いで話す予行。

第5回　Why Study Media?

ここから本編。読む資料を先に渡します。

chat系AIを使った学習方法の一つです。デモして見せます。

学習プラットフォームの入り方

第1回｜オリエンテーション

gengodojo.app

- Google でログイン
- 配られたリンクかコードで、自分のクラスに入る
- ホームの「授業の課題（必須）」に、課題が並びます

課題の出し方

画面でやってみせます

- 見本を聞く → 録音する → 評価が出る。何回でもやり直せます
- 決められた回数を練習すると、提出できます。いちばん良い回が選ばれます
- 提出すると「✓ 提出完了」に変わります

フィードバックを、次の練習につなげる

- 元の文章/録音 → コメント → 自分が直す → もう一度試す。
- AIの文章をそのまま自分の答案にしません。元の文も残します。

- AIが読んだ音声を、自分の音読として提出してはいけません。
- 使った助言と変更点を記録します。教員にも相談できます。

記録と研究協力について

第1回｜オリエンテーション

- 教員は、課題・練習の記録や返された助言を確認します。
- 学生個人の内容を、他の学生と比較して公表しません。
- 研究で使う場合は、授業の評価とは別に説明し同意を取ります。

- 研究協力に同意しなくても、成績への不利益はありません。

先生の自己紹介

どれくらい聞き取れましたか

質問に、学習プラットフォームで答えてください。第2回の前日まで。自己紹介の録音とセットで、いまの「聞く」と「話す」を見ます

英語で挨拶して、名前を言う

まず先生がやります。そのあと、隣の人と

- Hi, I'm ... / Nice to meet you.
- Where are you from? / What's your major?
- 止まったら　Sorry, could you say that again?

第2回までの課題：自己紹介

詳しくは授業サイトに書きます

課題内容 / Assignment Details

自己紹介を英語で録音して出してください。中身は自由です。いまの話す力を見るためのものでもあります。

Record and submit a self-introduction in English. What you talk about is up to you.

作り方

1. 日本語で内容を考える　2. 自分で英語にする（AIに直してもらってよい。ただし直す前の自分の文も残す）　3. 見本の音を聞いて、真似して、声に出して練習する
4. 自分の声で録音して提出する

自己紹介：録音と締切

第1回｜オリエンテーション

録音と提出

1分程度。学習プラットフォームのホームの「授業の課題（必須）」から提出します。AIに読ませた音声を自分の録音として出すのは不可。

Record for approximately 1 minute and submit it on the learning platform. AIからフィードバックが返ってきます。出せば加点します。締切に遅れたら、加点は半分です。 You will get feedback from AI. Submitting earns bonus points, half if late.

提出期限 / Submission Deadline

まず一度出す（木曜クラス10月7日、月曜クラス10月18日）。直したものの締切は、木曜クラス10月25日（日）、月曜クラス11月1日（日）の23時59分。やり方は第2回でもう一度説明します。

First try: the day before session 2. Revised version: Thu class Sun 25 Oct, Mon class Sun 1 Nov, 23:59.

質問と連絡

- 履修や大学の事務手続きのことは、大学メールから kshigaki@imc.hokudai.ac.jp へ
- 英語の授業のことは、学習プラットフォームの質問箱から
- 研究室は S410。授業のあとでも聞いてください